News Release

三井ゴールデン匠賞

三井広報委員会

2022年2月9日

第4回「三井ゴールデン匠賞」 受賞者決定

伝統技術の再現・発展・継承に寄与する5組を選出

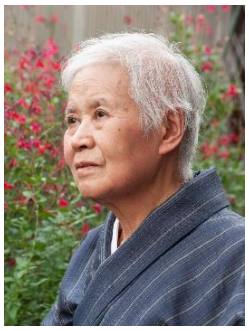
2月9日よりモストポピュラー賞の一般投票開始 3月6日まで受付

三井グループ24社で構成する「三井広報委員会」は、日本の伝統工芸の持続・発展に真摯に取り組む個人・団体を表彰する第4回「三井ゴールデン匠賞」において、ファイナリスト20組を対象に厳正なる本審査を実施し、5組の〈三井ゴールデン匠賞〉の受賞者(個人および団体)を決定しました。また、〈審査員特別賞〉2組、〈奨励賞〉2組の受賞者(個人および団体)も決定しました。

この度の受賞者は、伝承技法の再現に取り組まれる方、新たな独自技術を取り入れ、これまでにない伝統工芸の魅力を追及される方、産地活性・若手育成・伝統技術の一般への普及に力を注がれている方などが選出されました。

【第4回「三井ゴールデン匠賞」 受賞者】 50音順 / 敬称略

〈三井ゴールデン匠賞〉



|岡山県|
烏城紬保存会(うじょうつむぎほぞんかい)
※団体として応募

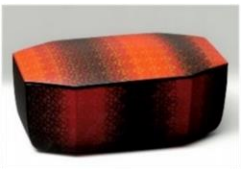
|香川県|
佐々木 正博(ささき まさひろ)

|東京都|
株式会社 松崎人形(まつざきにんぎょう)
※団体として応募

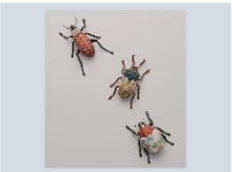
|三重県|
松山 好成(まつやま よしなり)

|石川県|
宮本 雅夫(みやもと まさお)

[烏城紬](うじょうつむぎ)



[漆芸](しっげい)



[江戸木目込人形・江戸節句人形](えどきめこみにんぎょう えどせっくにんぎょう)

[伊賀くみひも](いが)

[九谷焼](くたにやき)

〈審査員特別賞〉 |福岡県| 築城(ついき) 則子(のりこ) [小倉織](こくらおり) |秋田県| 林(はやし) 美光(びこう) [金銀銅杢目金](きんぎんどうもくめがね)

〈 奨 励 賞 〉 |東京都| クリエイティブ・シェルパ [江戸仕立て都うちわ千鳥型](えどじたてみやこ ちどりがた)
※団体として応募
|香川県| 松本(まつもと) 光太(こうた) [香川漆器](かがわしっき)

また、今回選出された〈三井ゴールデン匠賞〉受賞者5組の中から、一般投票による選出で〈モストポピュラー賞〉を決定し、3月18日(金)開催の贈賞式にて発表します。〈モストポピュラー賞〉は、一般の方々に伝統工芸を身近に感じていただく事を目的としており、一般投票は、2月9日(水)~3月6日(日)までインターネット上で行います。
(投票ページ https://mgt.mitsuipr.com/about/winner.html)

【第4回「三井ゴールデン匠賞」受賞者 選出ポイント】

〈三井ゴールデン匠賞〉

岡山県　**烏城紬保存会**（うじょうつむぎほぞんかい）　※団体として応募　　工芸品種類：烏城紬（うじょうつむぎ）

[代表：須本（すもと） 雅子（まさこ）]

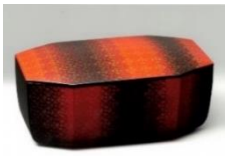
応募タイトル　「岡山県指定郷土伝統的工芸品である烏城紬の伝統と技術の伝承を目指す」

選出ポイント　須本氏が中心となって始まった烏城紬の技術保存、継承への活動が今では大きく広がり、講座卒業生の中には県展で入選する者も。積極的に保存会会員が須本氏とともにイベントに参加し、商品についての評価や好まれる柄などの研究、マーケティングを重ねてきた。その継続した努力が評価され、第3回(ファイナリスト)に続いて、今回はゴールデン匠賞受賞となった。「工芸界でより女性が活躍する場を固める、大きな役割を果たしている」(審査員・福島 武山氏)。また、「紬のやわらかい風合い、極めて繊細な縞のニュアンスが素晴らしい」(審査員長・外舘 和子氏)と織物としての評価も高かった。

香川県　**佐々木（ささき） 正博（まさひろ）**　　工芸品種類：漆芸（しつげい）

応募タイトル　「蒟醤（きんま）の持つ繊細な美しさをグラデーションで表現する独自性」

選出ポイント　讃岐漆芸の伝統を受け継ぎながら、現代的な漆作品を模索している佐々木 正博氏。従来単色の地色が用いられてきた蒟醤の技法にはなかった微妙なグラデーションと、繊細な文様を駆使した華やかな表現が「圧倒的な技術力と創造性を持つ」と審査員全員から高く評価された。蒟醤をさらに広めるため、グループ展、個展の積極的な開催、小学生を対象にしたワークショップを20年以上継続している。

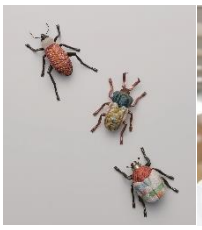


東京都　**株式会社 松崎人形**（まつざきにんぎょう） ※ 団体として応募　　工芸品種類：江戸木目込人形（えどきめこみにんぎょう）・江戸節句人形（えどせっくにんぎょう）

[代表：松崎（まつざき） 光正（みつまさ）]

応募タイトル　「動物、昆虫、植物をモチーフに木目込（きめこみ）技法で新しいオブジェを創出」

選出ポイント　木目込みという技術は同じながら従来の節句人形とはまったく方向性の違う、動物や昆虫、植物をモチーフとしたオブジェに、「高い木目込みの技術力と斬新さを感じる。人形文化をしっかりと育てている」(審査員・福島 武山氏)と高評価。若い職人の育成にも力を尽くし、フランスなど海外にも積極的にアピール。アートとしても十分に受け入れられるクオリティで、人形工芸の新しい方向性を示した。



三重県　**松山（まつやま） 好成（よしなり）**　　工芸品種類：伊賀（いが）くみひも

応募タイトル　「廃れかけている唐組台による組紐制作技術の継承」

選出ポイント　長さ155cm、幅1.9cm の帯締めを作るには、毎日組み続けても4ヶ月以上かかるという唐組台による組紐。幅を揃え表面を平らに編み上げるにはたいへんな熟練の技を要する。「たとえ何に使うかわからない外国人が見ても、この作者ならではの帯締めの意匠の新鮮さ、技術の高さはわかるはず。また、唐組台自体も自身で作ることで、幅広い表現を追求、工夫する姿勢が素晴らしい」(審査員長・外舘 和子氏)と好評を得た。

石川県　**宮本（みやもと） 雅夫（まさお）**　　工芸品種類：九谷焼（くたにやき）

応募タイトル　「九谷焼の本流、伝統と伝承の融合を未来へ」

選出ポイント　「職人、作家としての技術の高さだけでなく、経営者、産地のリーダーとして積極的に行動して産地をけん引していることは素晴らしい」(審査員・河井 隆徳氏、福島 武山氏)。レベルの高い作品が多い九谷焼のなかでも、独自開発した絵の具の存在感、表現力が注目された。これは剥離しにくく透明度が高いことが特徴で、鮮やかさと温かみ、立体感ある独特の表情に焼き上がる。この絵の具を用いた緻密な絵付けと産地全体への貢献が高く評価された。

〈審査員特別賞〉

福岡県　**築城 則子**（ついき のりこ）　工芸品種類：小倉織（こくらおり）

応募タイトル　「伝統工芸の小倉織を現代のテキスタイル《小倉 縞縞》として創出」

選出ポイント　最盛期には生産工場が100社あったとされるが、昭和初期には低迷していた小倉織。手織りや、外部の工場に委託していたが、自社工場の必要性を感じ、2008年に小倉織物製造株式会社を設立。小規模工場の利点を活かし、小ロットからの注文にもすばやく対応できることを強みに受注を広げている。築城 則子氏がアートディレクター、デザイナーを務めるブランド《小倉 縞縞》は、ファッション、インテリア、サッカークラブのユニフォームなど縞の可能性を感じさせるさまざまなプロダクトへと展開。「繊細な縞を、多くの人が手に取れるよう柔軟に展開している」(審査員長・外舘 和子氏)。産地活性への貢献、若手育成が評価された。

秋田県　**林 美光**（はやし びこう）　工芸品種類：金銀銅杢目金（きんぎんどうもくめがね）

応募タイトル　「金銀銅杢目金の再現と発展・継承」

選出ポイント　杢目文様に加え、新たに板目文様を出すことにも成功。デザインに多様性を持たせ、現代的な茶道具、花器、飾り箱などを制作。「杢目を出すのは難しいなかで、このように自由にデザインできる技術力を推したい」(審査員・清水 眞澄氏)「失われた技法を解明した、ゆるがない信念」(審査員・千 宗屋氏)など審査員より高い評価を得た。

〈奨励賞〉

東京都　**クリエイティブ・シェルパ**　※ 団体として応募　工芸品種類：江戸仕立て都うちわ千鳥型（えどじたてみやこうちわちどりがた）

[代表：羽塚 順子（はねづか じゅんこ）・藤田 昂平（ふじた こうへい）]

応募タイトル　「後継者不足の職人技を障がいのある異才の若者が継承」

選出ポイント　50以上の工程があるという千鳥うちわの制作。資材を和紙、竹骨、持ち手の3つに分け、各パーツを今後の継続制作が可能な施設で練習にとりかかった。障がいを持つ方のそれぞれの個性に合わせた工程を割り振ることで、その能力を存分に引き出し、結果としてクオリティの高いプロダクトとして仕上げた。「取り組み自体も素晴らしいが、たとえものづくりの背景を知らなくても、欲しくなる完成度」(審査員・千 宗屋氏)

香川県　**松本 光太**（まつもと こうた）　工芸品種類：香川漆器（かがわしっき）

応募タイトル　「香川県の可能性と魅力を最大限に集約。石粉塗（いしこぬり）による新しい香川漆器を開発」

選出ポイント　本来なら産業廃棄物となる「庵治石(あじいし)の削り石粉」に漆を混ぜ込み「石粉塗」を開発した視点のおもしろさ、ユニークさが高く評価された。「花崗岩のダイヤモンド」と呼ばれるほど硬く、丈夫である庵治石。「Ishiko」シリーズは強度の高い石粉塗で器を塗ることで、金属カトラリーを使っても傷がつきにくく指紋が気にならず、シンプルなデザインにより、和洋の垣根を超える漆器となった。食育の一環としてこうした漆器を小学校に無償提供し、次世代の使い手を育てる活動も始める。アート活動としては漆器に施した「蒟醤(きんま)」の模様が US 花王ボトルに採用され、全米で発売されている。商品開発、国内外への啓発など複合的な活動が大きく評価された。

【第4回「三井ゴールデン匠賞」 審査員による全体講評】

今回からグランプリに代わり5組の「三井ゴールデン匠賞」を最高賞とし、さらに「審査員特別賞」「奨励賞」が新設されたことにより、審査もより白熱した第 4 回「三井ゴールデン匠賞」。
伝統的な工芸品とその取り組みだけでなく、持続可能な消費と生産を意識したユニークな素材開発、WEB を多様に取り入れた展開例、福祉作業所と職人技を結びつけた「伝福連携」の好例など、
これまでには少なかった取り組みからのエントリーも目を引いた。
さまざまな経歴を持つ5名の審査員が独自の視点から審査、議論することで、質の良さは保ちつつ工芸の可能性や幅を広げる多様性のある賞となった。

News Release

第４回「三井ゴールデン匠賞」 概要

「三井ゴールデン匠賞」は、日本の伝統工芸の持続・発展に真摯に取り組む個人・団体を表彰するものです。

伝統工芸界には、日本の伝統を継承しながら未来につながるものづくりに真摯に取り組み、さらに発展させている伝統工芸の担い手がいらっしゃいます。三井広報委員会は、本賞を通じ、こうした取り組みの担い手に称賛が集まる機会を作り、日本の伝統を次世代につなぐ取り組みを応援しています。このため、本賞は伝統工芸品の職人はもとより、器具・素材の開発や、経営・流通に関わる方など、伝統工芸界を支える幅広い個人や団体を応募対象としています。

日本の伝統文化の継承・発展、また国内外への情報発信の重要性が高まる昨今、第4回「三井ゴールデン匠賞」におきましても、伝統工芸の素晴らしさを広く伝える機会の創出に寄与してまいります。

※ 2015 年に「三井ゴールデン匠賞」創設。これまでに3回(2015 年度/2017 年度/2019 年度の隔年実施)にわたり、優れた活動を行う伝統工芸の担い手にスポットライトを当て、その功績を称える活動を行ってきました。

「三井ゴールデン匠賞」公式サイト ： https://mgt.mitsuipr.com/

【 主　　催 】 三井広報委員会

【 後　　援 】 経済産業省
一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

【賞の種類/賞金】 〈三井ゴールデン匠賞〉
5名または5団体以内。
審査員による審査で選出。
トロフィーおよび、賞金50万円を贈与。

〈モストポピュラー賞〉
1名または1団体。
インターネットによる一般投票により、
〈三井ゴールデン匠賞〉受賞者の中から選出。
トロフィーおよび、賞金10万円を贈与。

〈審査員特別賞〉
若干名(該当者無しの場合もあり)。
審査員による審査で選出。
トロフィーおよび、賞金20万円を贈与。

〈奨励賞〉
若干名(該当者無しの場合もあり)。
審査員による審査で選出。
トロフィーおよび、賞金10万円を贈与。

【 贈 賞 式 】 2022年3月18日(金) 「三井ゴールデン匠賞」 贈賞式、及び、モストポピュラー賞発表

【審査ポイント】 「技術・技能」、「創造性」、「持続性」。その視点から未来につながる取り組みを評価します。

【 審 査 員 】
・ 外舘 和子 (工芸評論家 多摩美術大学教授) ＊審査員長
・ 清水 眞澄 (三井記念美術館館長 成城大学名誉教授)
・ 河井 隆徳 (一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会 産地支援部 部長)
・ 千 宗屋 (武者小路千家家元後嗣)
・ 福島 武山 (日本工芸会 正会員 伝統工芸士 九谷焼赤絵細描作家)

【三井広報委員会について】

三井グループ企業 24 社で構成される三井広報委員会は、
“人を大切にし、多様な個性と価値を尊重することで社会を豊かにする”という理念のもと、
様々な文化活動および広報活動を行う組織です。
活動を通じ、国際交流や地域社会の活性化に貢献するとともに、社会の繁栄と福祉に
寄与し、三井グループのより一層のイメージ向上を目指しています。

三井広報委員会

〈会員会社一覧〉

三機工業 新日本空調 三井住友建設 サッポロビール 東レ 王子ホールディングス デンカ 三井化学
日本製鋼所 三井金属 東洋エンジニアリング 三井 E&S ホールディングス 商船三井 三井物産
三越伊勢丹ホールディングス 三井住友海上 三井住友銀行 三井住友ファイナンス&リース JA 三井リース
大樹生命 三井住友トラスト・ホールディングス 三井不動産 三井倉庫ホールディングス エームサービス

〈主な活動〉

- 「三井ゴールデン匠賞」の提供
- 「三井ゴールデン・グラブ賞」の提供
- 「三井ゴールデン・グラブ野球教室」の開催

「人を大切にし、多様な個性と価値を尊重することで
社会を豊かにする」ことを目的とした社会貢献活動

MITSUI HUMAN PROJECT

三井ゴールデン・グラブ賞

一般的に注目が集まりやすい攻撃陣や投手陣だけでなく、野球の土台ともいえる守備の大切さを知ってほしい、守備陣にも光を当てたい、という想い

三井ゴールデン匠賞

日本の伝統を継承しながら未来につながるものづくりに真摯に取り組み、さらに発展させている伝統工芸の担い手の活動を応援したいという想い

三井広報委員会公式サイト ：https://www.mitsuipr.com/

<報道関係者からのお問い合わせ先>
「三井ゴールデン匠賞」広報事務局 株式会社エクス
E-mail：ex-pr@ex-inc.net　FAX：03-6435-1043